

さんむのふるさと散歩 NO.53

忘れられた戦跡

昭和20年8月15日の太平洋戦争終結からはや68年。

犠牲者約310万人を数えた未曾有の国難も、歳月の経過と共に、記憶の底から消え去ろうとしています。

ですが丹念に探してみると、まだ市内には当時を物語る「戦跡」が残されています。

この頁ではこれまでの調査で判った事例を紹介しします。

太平洋戦争開戦から3年以上が経過し、昭和20年になると、日本が占領した太平洋の島々はことごとく米軍の手中に帰し、硫黄島や沖縄も攻略されるに及んで、いよいよ日本本土が敵の攻略目標となりました。

翌年には、米軍の九十九里浜上陸が予想され、市内を含む近隣町村には、多数の軍部隊が駐留、陣地構築にあたっていました。



写真1

写真1は睦岡小学校裏門付近に立つ戦車第33聯隊の碑です。戦車第33聯隊は、米軍の落下傘部隊による降下にそなえて配備された部隊でした。

当時、米軍はサイパンや硫黄島の基地からB29等を発進させ、日本にいたるところで空襲を行っていました。

米軍機による空襲に対して、日本軍も戦闘機による迎撃戦を展開しますが、必要な機数を確保できず、米軍機に圧倒されていました。

昭和20年6月23日、米軍機来襲の報を受け、迎撃のため日本軍戦闘機が出撃、その中に上野典夫少佐が率いる海軍機「雷電」3機小隊の姿がありました。



写真2「雷電」

上野小隊が敵機を求めて千葉県上空を飛行中のことです。ふと下を見ると敵機が1機で飛んでいる

のが見えました。それは上野小隊の気を惹くための囮役だったようです。囮役の敵機に注目していたその時、上空から別の敵機7機が上野小隊に襲い掛かりました。応戦する暇もなく2機が被弾、1機は山武市森地区の水田に、もう1機は東金市三ヶ尻地区の山林に墜落しました。

森地区に墜落したのは、若干20歳の小林勝治飛行兵曹長でした。



写真3

写真3は、小林飛行兵曹長を慰霊するために建てられた祠です。三ヶ尻地区に墜落したのは隊長の上野少佐です。上野少佐は22歳でした。



写真4

写真4は上野少佐を慰霊するために建てられた石碑です。

小林氏の慰霊祠、上野氏の石碑は、長い間地元の方々によって祀られてきました。

今回の「忘れられた戦跡」展では、紹介した雷電に関する資料を中心に展示します。

問 歴史民俗資料館

☎ (82) 2842

歴史民俗資料館では、戦争体験や戦跡に関する資料を収集しています。皆様からの情報提供をお待ちしております。